

氏名	前原 貴典
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6464 号
学位授与の日付	2021 年 9 月 24 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	A second opinion pathology review improves the diagnostic concordance between prostate cancer biopsy and radical prostatectomy specimens (前立腺癌生検におけるセカンドオピニオン病理診断による根治的前立腺摘除術標本との診断的妥当性の改善について)
--------	--

論文審査委員	教授 吉野 正 教授 内田治仁 准教授 江口 潤
--------	------------------------------------

学位論文内容の要旨

前立腺癌において、グリーンソングレードグループ(GGG)による病理組織診断は、治療方針を決定する上で不可欠であるが、針生検標本と根治的前立腺摘除術の標本とで、しばしば GGG が異なるのが現状である。当研究では、岡山大学病院でロボット補助下根治的前立腺摘除術(RARP)を施行された計 497 症例につき、重み付けカッパ係数(k)により両者の GGG が一致する程度を評価し、針生検標本のセカンドオピニオン病理診断が診断的妥当性を改善する可能性を検討した。針生検標本の最初の病理診断では $k=0.522$ であり、セカンドオピニオンでは $k=0.560$ と改善された。前者と後者は 310 症例で一致しており、この場合 $k=0.626$ と RARP の病理診断と相当の一致を示した。GGG が RARP 後に増加したのは、前者で 204 症例(41.0%)、後者で 166 症例(33.4%)と減少した。セカンドオピニオン病理診断は、針生検標本の診断的妥当性の改善に有用であることが示された。

論文審査結果の要旨

本研究は、前立腺癌におけるグリーンソングレードグループ (GGG) について検討したものである。GGG は治療方針を決定するうえで不可欠なものとなっているが、針生検標本と根治的前立腺摘除術標本では異なる例もみられる。本研究では岡山大学病院でロボット補助下根治的前立腺摘除術 (RARP) が施行された 497 例について、重みづけカッパ係数 (κ) により両者の GGG が一致する程度を評価し、針生検標本のセカンドオピニオン病理診断が診断的妥当性を改善するかについて検討した。針生検標本の最初の病理診断では $\kappa = 0.522$ であり、セカンドオピニオン $\kappa = 0.560$ で改善傾向があった。両者では 310 例で一致しており、この場合 $\kappa = 0.626$ と RARP の一致がみられた。GGG が RARP 後に増加したのは前者で 204 例 (41%)、後者で 166 例 (33.4%) と減少し、セカンドオピニオンの重要性が示された。

実験の目的、手法、結果とその解釈とも適切になされており、前立腺癌に関する重要な知見を得たものと評価される。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。